

学校教育目標

やさしく

かしこく

たくましく

○道徳教育の推進  
○特別活動の推進

○体力の増進  
○健康の増進

目指す児童像

○自分も友達も大切にすることも

○自分の考えを堂々と表現できる子ども

○体力づくりに目標を持って取り組む子ども

達成目標

『学ぶ楽しさを味わいながら、進んで学ぶ子ども』

【単元確認テストでの目標（学年毎）】

- 国語科・算数科 90点以上
- 理科・社会科 90点以上

【定着確認シートの確認】

- 定期的な実施・考察

【授業の評価】

- 学びの習慣を育てる事業

【標準学力調査における数値目標】

- 目標値と同程度以上の正答率の児童の割合を90%以上とする。

【フォローアップシート等の活用】

- 繰り返し問題に取り組ませる。

○アンケートの実施（5月・12月・2月）

評価の視点

- 単元確認テスト
- 全国学力・学習状況調査
- 標準学力調査
- 定着確認シートの活用

CHECK

DO

「確かな学力」の三つの要素  
○ 基礎的・基本的な知識・技能の習得  
○ 主体的に学習に取り組む態度

DO

【学校教育法第30条第2項】  
○ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力表現力等

DO

評価の視点

- 発言
- ノート、学習感想、作文、自己評価
- 家庭学習の取組の状況

CHECK

ACTION

授業の充実（個に応じ、個を生かし、個を伸ばす指導の充実を目指して）

☆ ねらいを達成できた時の具体的な姿をイメージした授業づくり

- ・ 授業のねらいが見える毎時間の授業構想の工夫
- ・ 単元全体を通じてねらう児童の姿が見える単元構成の工夫

☆ 学び方を教える授業づくり

- ・ 6年間を通して児童を高める系統的・計画的な学習指導
- ・ 児童が主体的に学べる「学び方」の指導

☆ 個に応じた指導の工夫

- ・ 国・算・社・理及び一部教科について単式指導。また、T・Tによる指導の工夫
- ・ コース別学習、習熟度別学習の実施

学力の実態と課題

□ 標準学力調査結果より  
・ 国語科では学年によって習熟の差が大きい。「特に言葉のきまり」「漢字の読み書き」「話すこと・聞くこと」が苦手である。授業の中で話し合う活動を多く取り入れていく。  
・ 算数科では、個人差も大きいので、それぞれ個に応じた指導を継続していく必要がある。特に個人のレベルに合った課題を与えたり、反復練習をすることが必要。授業では考える活動を取り入れ、比較・検討していく。

PLAN

授業周辺における手立て

読書活動の充実

- ◇ 読書の時間・読み聞かせの実施  
・ 教職員・ボランティアによる読み聞かせ
- ◇ 本となかよしタイムの実施  
・ 手のひらの会・もったいない図書館の支援員の方々に協力していただき、ブックトークなどを実施
- ◇ こあらタイム  
・ 図書室に全校生で集まり、読書の習慣化をはかる。

家庭学習の充実

- ◇ 生活振り返り・家庭学習の手引き活用～  
・ 家庭学習の習慣化  
・ (学年+1) × 10分
- ◇ 各学年、各自の発達段階に応じた内容  
・ 個に応じた自主学習の習慣化
- ◇ 家庭学習の仕方の指導（家庭学習の手引き）  
・ 個に応じた家庭学習の仕方の工夫（音読、漢字、計算、日記、作文、自学等）  
・ 学校で学習した内容をその日のうちに復習

PLAN

学級づくり・学習集団づくり

児童理解（児童の実態・変容の把握）、個をいかす、道徳の授業

ACTION

現職教育の充実

○授業を見合う会の活用

○授業の質的改善

○授業研究会の参加

○要請訪問の活用